

バイオインパクト ライトヒラメ

BIOIMPACT LIGHT HIRAME 64 225

●穂先にはソフチューブトップ搭載、ブランクはスパイラルX コアとハイパワーX で強化。手感度を増幅させるカーボンモノコックグリップに加え、安定性と操作性を併せ持つ新設計X シートテクニカルガンングリップなど、シマノが磨き上げてきたロッドテクノロジーを注入して生まれ変わったバイオインパクト ライトヒラメ。

64 225 全長2.25m、仕舞寸法91.8cm、オモリ負荷20～80号、本体価格68,500円
73 235 全長2.35m、仕舞寸法96.8cm、オモリ負荷20～80号、本体価格69,500円

バイオインパクト ヒラメ

BIOIMPACT HIRAME 64 M270

●「バイオインパクト ライトヒラメ」と同じく最先端のシマノロッドテクノロジーを満載した従来のレングスの「バイオインパクト ヒラメ」もリリース。

64M 270 全長2.7m、仕舞寸法138.3cm、オモリ負荷30～100号、本体価格75,500円
73MH 270 全長2.7m、仕舞寸法138.3cm、オモリ負荷40～120号、本体価格77,500円

【Xシートテクニカルガンングリップ】

●左右両用、安定性と疲労軽減に加え、フロントにトリガー部を設けることにより操作性を飛躍的に高めた新設計のグリップ。トリガー部に人差し指を添えると手首が前方に出て細かい操作が可能になった



【ソフチューブトップ】

●チューブの長さである軽量、伝達性の高さを活かしたソリッド並みのしなやかさをプラス。オモリが着底した瞬間のブレがなく、ヒラメのアタリを動きとして明確に表現する



●64-225で合わせた瞬間。大型を浮かせるパワーも備える

【カーボンモノコックグリップ】

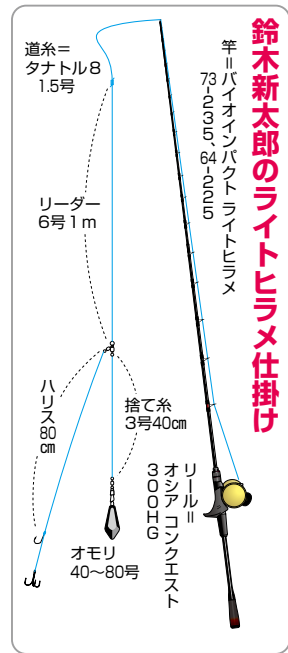
●リアグリップをカーボン一体成型で中空構造化したカーボンモノコックグリップは穂先に現れない情報を手や腕、脇など触れている場所に「手感度」として増幅して伝える



▲脇挟み時はしっかりとグリップを密着させる



▶腕を伸ばすときは腕にグリップを密着させる



鈴木新太郎のライトヒラメ仕掛け

深い霧に包まれた飯岡沖。水深12メートルの根周りのポイントで仕掛けが着底した瞬間、鈴木新太郎の表情が変わった。「着底と同時にアタリがありましたよ」

そう言って左手で持つ竿を立てるように合わせを入れるとしっかりとハリ掛かり。きれいな弧を描いて魚を浮かせ、この時期のレギュラーサイズである1キログラムを上げた。開始からわずか30秒ほどの出来事だった。

「このグリップは左右両用なので、竿を持ち替えて釣りやすい位置もキープできます。安定感と攻め、まさにライトヒラメに最適なグリップといえます」

「64-225」で3枚のヒラメを釣り上げたあとは、「73-235」にチェンジ。

「64タイプはヤリトリの楽しい竿で個人的に好きな竿です。73タイプはフィールド、流し方などを問わないバランス型に仕上がっています。絶対にヒラメを釣りたいという人は73から始めるのもいいと思います」

さらにノーマルタイプは2.7メートルと全長があり、横流しかから深場まであらゆるフィールドに対応でき、冬場の大型ヒラメにおすすめだという。

「今日は浅場中心に狙うのとことだったのでライトの64タイプを選びましたが正解だったみたいです」

その竿の名は「バイオインパクト ライトヒラメ64-225」。

鈴木新太郎をして「まさにヒラメを釣るための竿」だという、自信とこだわりの詰まったヒラメ専用竿。

「穂先は従来のカーボンソリッドからカーボン製のソフチューブトップになりました。しなやかですがブレがなく仕掛けを安定させてくれます」

通常時、鈴木はオモリを5センチだけ浮かせて折オモリの先端で海底をリサーチするイメージで操作するそうだが、ソフチューブトップは、この位置を容易にキープできるという。

「自分のイメージした場所に仕掛けをキープできるので、海底からの情報をより多くキャッチできます。それも曖昧な感じではなく、「きた」としっかりと目で感じ取ることができます」



▲お気に入り64-225
▲浅場でライトヒラメはスリリング

「このグリップは左右両用なので、竿を持ち替えて釣りやすい位置もキープできます。安定感と攻め、まさにライトヒラメに最適なグリップといえます」

「64-225」で3枚のヒラメを釣り上げたあとは、「73-235」にチェンジ。

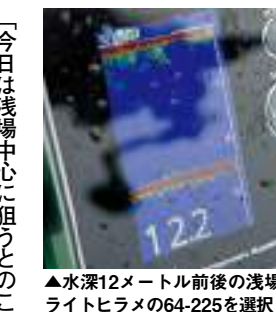
「64タイプはヤリトリの楽しい竿で個人的に好きな竿です。73タイプはフィールド、流し方などを問わないバランス型に仕上がっています。絶対にヒラメを釣りたいという人は73から始めるのもいいと思います」

さらにノーマルタイプは2.7メートルと全長があり、横流しかから深場まであらゆるフィールドに対応でき、冬場の大型ヒラメにおすすめだという。

「今日は浅場中心に狙うのとことだったのでライトの64タイプを選びましたが正解だったみたいです」

その竿の名は「バイオインパクト ライトヒラメ64-225」。

鈴木新太郎をして「まさにヒラメを釣るための竿」だという、自信とこだわりの詰まったヒラメ専用竿。



▲水深12メートル前後の浅場でライトヒラメの64-225を選択

TECHNOLOGY OF S

ヒラメ釣りに必要とされる感度を究めるニューロッドバイオインパクト ライトヒラメ 登場

最新シマノテクノロジーの実証
テクノロジー・オブ・エス vol.89



▼穂先はしなやかながら仕掛けを安定させてくれるソフチューブトップ



◀左右どちらの手にも安定感があるXシートテクニカルガンングリップ

◀手感度を増幅するカーボンモノコックグリップ

●まさに「ヒラメを釣るための」ヒラメ竿。鈴木新太郎が自信を持ってそう語る竿がいよいよデビューする。その名はバイオインパクトライトヒラメ。ヒラメ釣りの感度を究めたとすら言えるニューロッドの実力を飯岡沖で遺憾なく見せつけてくれた。